

未来を決める方法の一つ

宮崎東諸県支会代表 矢野 旬瑠未

「投票に来てくれてありがとう。」これは私が18歳になり、初めての投票で受け付けの係員の方に言われた言葉です。皆さんはこの言葉を聞いてどう思いますか。私はこの言葉を聞いたとき違和感を持ちました。「どうして投票をただけで感謝されるのだろう。」と。その時初めて私は「若者の投票率の低さ」を実感しました。この言葉を聞いたとき、違和感を持った人はどのくらいいるのでしょうか。きっと多くの人が「若者の投票率は低いからね。」と納得するのだと思います。それは大人に限らず、私たち若者もそうでしょう。しかし、若者は尚更、この言葉に違和感を持つべきだと私は考えます。

現在の宮崎の18～19歳の投票率は約20%で、20～24歳の投票率も同じく約20%です。選挙権が引き下げられても、その年代の2割未満の人しか投票をしていません。また、投票率の低さは若い世代が突出していますが、かといって他の世代の投票率が高いわけでもないのです。55～59歳で初めて投票率が50%を超えるということも問題だと思えます。子供に投票の大切さを教えられる一番身近な親世代が半数も投票をしていないのだから、子供たちの投票率が下がるのも当たり前ではないでしょうか。ではなぜ、投票率が低いのか。これについては様々な意見があります。「投票に行くのが面倒」、「学生は地元に住み票が残ったままで手続きが複雑」、「投票しても何も変わらないと思っている」、「政治の話は難しくてわからない」などです。こういった様々な意見がありますが、私は選挙権の大切さを理解していないことが一番の原因だと思います。選挙権とは何でしょうか。選挙に参加できる権利でしょうか、それとも国や県の代表を選ぶ権利でしょうか。そうではありません。私は、選挙権とは私たちが未来を決める方法の一つだと考えます。そうは言っても、自分たちの未来と政治とそこまで関係があるようには思えないという人もいるでしょう。テレビの中の政治は自分の生活とはどこか遠くにあるように思えます。しかし、政治は確かに私たちの生活の中にあるのです。新型コロナウイルスが流行したことで、それを実感した人も多いのではないのでしょうか。度重なる緊急事態宣言で学校や職場に通えない、学校行事の縮小、マスク生活など政治の影響を大きく受けた生活だったと思います。このように、政治は私たちの生活と全く関係のないものではないのです。日々の生活ではあまり感じられない政治も、新型コロナウイルスのような大きな問題が起こればはつきりと顔を現すことを私たちは知っています。その時になって、もっとこうしてほしい、どうしてそんなことをするのだと文句を言っても遅いのです。確かに、私たちの未来を創るのは私たち自身ですが、その未来の生活も、そこにたどり着くまでの生活も、少なからず政治の影響を受けない瞬間はありません。

私たちは、実現したい未来が実現しやすい世の中を創らなければなりません。しかし、残念ながら世の中を変える力をすべての人が持っているわけではありません。でも、選挙権ならば18歳で全員が持つことになります。それは、私たちの未来に影響する政治に、私たちが影響を与えられる最も簡単な方法で唯一の方法ともいえるものです。それを、私の一票なんて、または、面倒くさいといった理由で簡単に放棄してしまっているのでしょうか。政治が難しくてわからないのであれば、現代では質問に答えていけば自分に合った政党や立候

補者を出してくれるサイトもあります。投票したい人がいないというのであれば、白紙投票をしてその意思を伝えることもできます。一つ一つは小さいかもしれませんが、積み重なっていけばおのずとその力は大きくなります。実際に反映されるかわからない、けれど、反映される可能性はゼロではありません。その可能性がゼロになるのは、私たちが選挙権を放棄したときのみです。選挙権を放棄することは、私たちが自身の最善の未来をどうせ実現できないと諦めていることになり変わりありません。しかし、私たちは未来を諦めているわけではありません。ただ、その未来を実現する方法の中に「選挙権」という手段が入っていることに気づいていないだけなのです。多くの人がそのことに気づき、選挙権を活用し、投票をして感謝されるのではなく、誰もが最善の未来へ向けて行動した自分を誇れるような世の中になることを願います。